

パブリック・サービス研究分科会

講義年月日 2009年7月13日(月) 午後2時45分～4時00分

講演者 慶應義塾大学 コンゴ小学校設立プロジェクト代表 サイモン・ベデロ氏

テーマ

「The Keio ACADEX Project The Vision of a Community Library and Primary School」

講義内容

【コンゴ共和国について¹⁾】

- ・ スーダン、アルジェリアに次ぐ世界第三位の国土面積
- ・ スペインからイタリアに及ぶ西ヨーロッパと同等、又、日本の6倍に当たる面積
- ・ 天然資源とりわけ、銅、ダイヤモンド、金、石油などの鉱山資源に恵まれた国

【アイデアの背景にあるもの】

- ・ 教育水準が低い故に、あらゆる場面で誤った意思決定がなされている
→ その結果、これまで多くのものを失ってきている
- ・ こうした誤った判断を避けるには正しい知識を身につけることが重要
→ 正しい知識の習得には、初等教育を充実させることが非常に重要
傾いてしまったピサの斜塔を垂直に修復するより傾かないようしっかりした土台を作る方が効果的(苗木はまっすぐ上に上にと伸びようとする)
→ 初等教育が充実していれば、学習する事が喜びとなり進学意欲を持つことができる。そして、正しい知識を身につけて大学へ進学できる
「君は今まで何を勉強してきたのか？」といわれるようなことにはならない

【”ACADEX” 構想】

- ・ コンゴの良い学校は都市部に限られ、地方の学校は条件の悪いものとなっている
- ・ 地元の子供たちは夏休み等の長期休暇や課外活動に関して、これとやってやる事が無く過ごしている
→ ならば夏休み中、子供たちが来て学べる様図書館を建てようということで図書館建設に着手
→ 土地が図書館のみとしては大きすぎる為、図書館を併設したモデルスクールを作るということで小学校建設に着手
- ・ こうして2005年にACADEX Project構想がスタート

【首都 Kinshasa における教育機会】

- ・ 首都 Kinshasa の良い学校はビジネスエリアにある。人々の住居地は主に郊外であ

¹⁾ DRC: “DRC” は “Democratic Republic of Congo” の省略形です

る為、多くの子供たちは学校へ遠距離通学している

→ 小田原から丸の内にある学校へ通っているのに匹敵する遠距離通学者もいる

→ 交通網が整備されていないので通学の苦勞も並大抵ではない

【一般的な学校の内部】

- ・ それぞれの学校が抱える異なる問題がある
- ・ 通常の学校では教室には机と椅子それに黒板が備わっているが、机は前向きに固定されていてグループ学習で向かい合った形に机を並べ変えることはできない
- ・ 屋根が無い学校では雨が降ると授業ができないので休校になる
 - 学校の環境的条件のため13歳になってもまだ4・5年生をやっている子供もいる
 - 例えば自分の甥の学校には机が無かったので、甥は机を背負い教科書を小脇に抱えて通ったし、又ある子供は3~4kmの道のり、しかもくるぶしが埋ってしまうような砂の坂道をまともな靴なしの徒歩で通学している

【公衆衛生】

- ・ トイレも決して衛生的とはいえない
 - 多くの学校では水道が通っていない為、水洗どころか手を洗う石鹸すらない
 - 多くの子供たちはまともな靴を履いていない為、足についたバクテリアを家に持ち帰ってしまう可能性がある
 - 家族に感染
- ・ 公衆衛生の大切さも子供たちには十分理解されていない、又はあまり関心が無い

◇ Academy of Excellence (ACADEX) = ‘優れた学校’ →モデルとしての環境と衛生的条件を持った学校

【何を教えるか】

- ・ 規則 (Discipline)
 - 特に重要、生活を行う上での全ての基本となる
 - 「規則」という概念は良いことを行うためにだけでなく、悪いことを行わないという意味からも重要な概念
 - 「規則」を守る事は「秩序」を保つ
- ・ 所有の概念 (Ownership) = 日本とアフリカのパートナーシップの基本でもある
 - 「公共物(財)」に対する敬意の重要性
- ・ 自発性、先導性 (Initiative) につながっていく
- ・ 発展性 (Progress) につながる

【具体的なカリキュラム】

- ・ 広い視野・創造性・責任感のある人間を育成する
- ・ サイエンス（数学、自然科学、生態学）
- ・ 芸術（音楽、美術、書、バレエ）
→ Creativity は Innovation に通じる能力であり高い IQ が求められる故に重要
- ・ スポーツ（サッカー（以外にも）、テニス、水泳）
- ・ 言語（英語、日本語、中国語）
→ ビジネスチャンスを生かす上での基礎
- ・ 倫理（時間や資産のマネジメント、公私の区別）

【今、学校に必要なもの】

スライドの写真は 2009 年 3 月のもので土地の広さは 15m×6m（屋根は 2009 年 8 月慶應義塾大学の研究会メンバーによって設置予定）、中央に廊下を挟み幼稚園と小学校 1 年生クラスが併設されている。2009 年 9 月開校予定。定員 60 名のところ 100 名からの入学希望があり、2010 年には新校舎の建設が予定されている（以降 4～5 年間は新校舎を作り続けることになるだろう）。

- ・ 衛生面に問題のない設備（特にトイレ・バクテリアの発生源で病気の原因にも）
- ・ 机や椅子
- ・ そして Library、図書館は知識の基本であり、象徴でもある（蔵書構築というよりも ‘Knowledge’ を ACADEX の生徒だけでなく他校の学生と地域の人々にも与えることが目標
→ 例えば、ピアノとその演奏方法が紹介された本があっても教師は演奏方法が分からない。研究会学生メンバーが演奏方法を教える為のマニュアルを作成している
→ 図書館に関する概念のない人々に図書館の有効性を伝えることは困難でもある。日本では学校に図書館がない事は想像しがたいが、コンゴでは殆どの学校が図書館を持たない。本があっても利用、活用法が分からなければ意味が無い。その為、図書館の管理方法やカタログ作成等についての教育援助が必要。

【日本との交流】

- ・ コンゴの国の現状を多くの人に知ってもらい、将来的には図書館の職員を派遣できればいいのではないかと（加藤先生）
- ・ 校舎という建物を研究対象とする研究室とそこで展開される教育システムを研究対象とする研究室が塾内にあり、校舎の設計・建築や教育カリキュラムは学生メンバーの手によるもので、そのメンバーが実際に現地視察を行って交流を深めている

- ・ コンゴに限らず、他の途上国においても同様の課題を抱えているものと思われる。
図書管理研究の立場から、学生や研究者が援助できるのではないか

【その他】

- ・ いかに関自分たち（日本）が恵まれているか、ということを考えてほしい

以上